Minatogawa
みなとがわ
港川自治会だより
発行／港川自治会（公民館）　〒904-2153 浦添市港川三丁目二六番地
879・6292（銘苅）／090・3324・4925（嘉陽）
会員班用
18年7月
第299号

平和への思い 受け継ぐ

港小6年生 今年も地域で平和学習

沖縄戦からすでに７３年。年々体験者が減る中、地域では今年も１１世帯、延べ１４名の方が子供たちへの体験継承に協力いただきました。港川では、子供たちが直接自宅を訪問し、体験者から話を聞くスタイルを続けています。遠い昔の記憶をゆっくり思い出し、普段の話し言葉で伝えていく。それぞれの訪問先に地域の人・父母がサポートでつきました。

語り部の皆さんも沖縄戦体験時は、今話を聞きに来た小学生たちとほぼ同じ年頃、中にはもっと幼かった人もいます。聞くほうも自分に置き換えれば、今学び、遊んでいる場所での７０年前の出来事です。最も身近な生活のなかで体験者の話を聞き、今後の平和の大切さ、普段の安心安全を考える授業になってほしいーと思います

（上写真）公民館で行われた嘉陽幸子さん（１班）の聞き取り。左写真は体験を語る照屋寛亀さん（５班＝自宅）

里浜と社会の未来に挑戦

「ONEサンゴ」pj

8日 公民館で事前学習

地域発の「青少年未来育成事業」ですが、父母や子どもたちだけでなく、内外の関心とプロジェクトへの協力も広がりを見せています。沖電開発は、夏休み中にも関わらず、父母参加に配慮し、事前学習から植えつけ、管理作業まで週末（土・日）の作業で対応してくれます。監視船の福地船長は天候や参加人数次第などによっては、当初日程外での船上観察などでも「協力を検討したい」と語っています。

植えつけ時の参加者の熱中症対策では地域包括支援センター「みなとん」からの看護士派遣が実現できそうです。里浜活動に参加している学生グループ、自治会の公民館教室で学び遊んだ卒業生（すでに社会人として活動したり、現在大学生、高校生など）も役割を考えながら参加への動きを始めています。

環境問題への危機意識、子どもたちの居場所づくり、教育的支援への意識変化ー多くの期待を込めながらまさに「プロジェクト」と呼べる企画になりつつあるといえます。ぜひ成功させたい。

参加希望者は早めに申込を

すでに募集定員に達している状況ですが、このプロジェクトは来年度以降がむしろ本番です。今回の様々な声、要望、がカギを握ります。まずは「応募」を！締め切りは5日（木）午後5時。

浦添の「里浜」を視察

台湾から環境問題調査団

26日、台湾で環境行政や研究機関などで活躍する専門家・活動家など約30人が、しかたに自然案内の案内でカーミージーの海を訪れました。一行は岩の上からイノーや海上高架橋がまたがる景観などをみた後、約2時間にわたってイノー全体で観察活動などをおこないました。

視察終了後は自治会公民館で昼食をしながら地域との交流、意見交換なども行われました。自治会は残り少ないアーサ汁やぜんざいなどを準備、喜ばれました＝写真。なお、調査団の西海岸への感想や里浜活動への評価については、8月に行われる鹿谷先生の講話で報告されます。

めくりだき ～ときどき閑話

里浜条例ができ、西海岸道路の一部橋梁化も実現。これぞ十数年に及ぶ地道な「里浜活動」の成果ー後世にも胸を張れる、と信じてきた。だが、自然のイノーは残せたが、温暖化等による環境変化が著しく「かつての豊かな海」も、近年は観察会で生き物を見つけることさえ苦労する程に激減している。このままでは、生き物もいない、ただ「海水だけの海」を残すことにしかならない。

生活の中の「貧困問題を含め」一体どんな未来を子どもたちに残すのか？今回の「ONEさんごプロジェクト」は、未来にも豊かなイノーを残したいーそんな思いを込めた地域からの新しい挑戦です。時代をつくってきた世代の責任として！